

事業別環境配慮検討チェックシート ①各種事業共通事項

事業名・事業概要								
地区名・事業場所								
事業者名・責任者名								
チェック者の氏名		計画段階() 設計段階() 工事段階() 供用段階()						
環境要素	環境配慮事項	該当の有無	具体的方策	検討、確認をした項目(○印)				備考 (対応の有無等)
				計画	設計	工事	供用	
調査 (特性把握)	(1)各シートの作成による特性把握 ・各シートは計画段階で作成し、設計以降は確認と時点修正する		① 事業特性把握シート(別表1) ----- ② 地域特性把握シート(別表2) ----- ③ 環境関係法令把握シート(別表3)					
	(2)現地調査の実施		① 既存資料の収集、聞き取り、現地確認等 ② 現地での環境保全のための詳細調査					
環境	(1)地域環境への影響の回避、低減		① 特に保全が必要な地域の事業回避の検討 ----- ② 複数案(箇所等)の検討					
景観	(1)良好な町並みや快適な都市景観の保全と創造		① 都市部や住宅地・商業地等においては現況の景観との調和に配慮した工法の検討					
	(2)歴史的景観の保全		① 地域の風土、歴史、文化を把握し、当該地域における重要な歴史的景観の保全対策 ----- ② 風致地区等で歴史的な景観がある場合には地元や専門家の意見を聞きながらの景観保全対策					
	(3)景勝地における景観の保全		① 景勝地の景観を損なう整備回避 ----- ② 整備回避が困難な場合は景観を阻害しない工法					
	(4)周辺景観と調和した緑化・植栽		① 開花期や紅葉など季節感を考慮した樹種選定 ----- ② 緩勾配のり面への高木植栽や構造物周辺の緑化、余裕地の緑化					
	(5)構造物の周辺景観への調和		① 形状の工夫 ----- ② 地場産素材の採用(現地産の自然石による石積等)や植栽の併用					
	(6)案内看板や標識等の設置場所、構造、色彩等の配慮		① 設置場所の検討 ----- ② 構造、色彩等の検討					
	(7)その他の配慮事項							
文化	(1)指定文化財や埋蔵文化財包蔵地等の保全		① 周辺の文化財の把握と、当該計画地を管轄する教育委員会との協議					
動物・植物・生態系	(1)貴重種等の重要な動植物の生息・生育地の保全措置		① 改変回避(場所の変更等) ----- ② 影響低減(計画の変更や縮小等) ----- ③ 代償措置(代替施設の設置、移動や移植等)					個体名
	(2)動物の移動経路の確保		① 事業による樹林帯等の緑地と里山や雑木林等の緑地を隣接 ----- ② 緑地の連続化や横断暗渠等により移動経路を確保 ----- ③ 小動物がはい上がれる道路側溝や用排水路、集水柵等の設置(階段形式や緩勾配壁への変換等)					
	(3)施設照明等による影響の低減		① LED照明等の昆虫類への影響を抑えた光源の採用 ----- ② 照明灯にルーバー ^{注1)} 等の設置による必要箇所以外の遮光 ----- ③ ホタルなどの生息地域を保全する必要がある場合は光を遮断する等の対策					
	(4)在来種を主体とした植栽・緑化		① 在来種を主体とした植栽・緑化 ----- ② 外来種を併用する場合でも生態系被害防止外来種リスト ^{注2)} の植物は使わない ----- ③ 在来植物の種を多く含んでいる現地発土の客土への利用 ----- ④ 動物のための食餌木を減少させる場合は移植や植樹を検討					
	(5)重要な動植物の生息・生育地の消失・縮小の低減		① 重要な動植物の生息・生育地への土砂流出防止措置、みだりな侵入、踏み荒らし防止措置					
	(6)一時的に改変された自然環境の復元		① 事業実施に伴って一時的に改変した自然環境を従前の状態に復元					
	(7)配慮すべき動物の生態を考慮した工事計画の作成		① 動物の行動範囲及び生態は、冬眠、渡り、繁殖、営巣など、時期によって変化するため、それぞれの特性に配慮した工事計画の作成					
	(8)その他の配慮事項							

大気・騒音・振動	(1)建設機械、工事車両の稼働方法の検討	① 建設機械の最少稼働となる施工計画の作成 ② 工事車両等の経済的な運行速度の遵守、急発進・空ふかしの抑制 ③ 稼働集中による影響が懸念される場合は影響低減策を検討	/	/	/	/	/	/
	(2)工事車両の走行ルートや走行時間帯の検討	① 騒音等による影響被害が低い走行ルートの選定 ② 生活道路や難道道路への進入を避けたルートの選定 ③ 通勤時間帯等の渋滞時間帯の走行回避	/	/	/	/	/	/
	(3)低公害型の建設機械の使用	① 低公害型(低騒音型、排ガス対策型等)の建設機械の使用	/	/	/	/	/	/
	(4)住宅隣接地等での粉じんの発生抑制	① 散水や加湿の実施、防塵シートの敷設 ② 工事関係車両出口にタイヤ洗浄装置等の設置	/	/	/	/	/	/
	(5)学校、病院、福祉施設、民家等の隣接地での騒音低減	① 遮音壁や防音シートの設置 ② 超低騒音型機械及び電動機械の使用 ③ 作業方法の検討及び作業時間の規制	/	/	/	/	/	/
	(6)その他の配慮事項							
水質・土壌汚染等	(1)濁水の流下・拡散防止施設の設置	① 濁水処理プラントの設置(トンネルやダム・堰工事等) ② 沈砂池、調整池の設置(一定規模以上の工事) ③ 仮設沈砂池、釜場等の設置(小規模工事等) ④ 汚濁防止シートの設置(湖畔や海洋域の工事等)	/	/	/	/	/	/
	(2)施工時期の配慮(濁水が河川に流入することを防ぐことが困難な工事等)	① 梅雨時期、台風時期等の出水期の工事の抑制 ② 稚鮎等の放流時期等の工事の抑制	/	/	/	/	/	/
	(3)工事途中における裸地部からの濁水発生対策	① 施工計画の検討による該当区間の早期完成 ② 床掘等で工事途中の暫定的なり面が長期間になる場合はビニールシートで覆う等の対策 ③ 端末部に仮設沈砂池や土砂溜めを設置	/	/	/	/	/	/
	(4)河川区域内の工事における濁水防止対策	① 土のうや矢板等による仮締切や切戻し水路の設置 ② 瀨替えなど著しい濁水の発生が抑えられない場合においても3~4日程度で著しい濁水の発生を抑える	/	/	/	/	/	/
	(5)土壌、地下水汚染に配慮した工法や対策の実施	① 地盤改良等では、周辺地域の地盤の性質や、地下水や公共用水域の利用状況に応じた工法を選定 ② 生コンの洗浄水やダム等のクリーンカット排水などは垂れ流しにせず、適正に管理	/	/	/	/	/	/
	(6)その他の配慮事項							
建設廃棄物・建設副産物	(1)建設廃棄物等の発生抑制、再資源化、適正処理	① 廃棄物の発生抑制等を考慮した事業計画の策定 ② 大分県リサイクル認定製品の積極的な利用	/	/	/	/	/	/
	(2)建設廃棄物(コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材等)の再資源化、適正処理等の実施	① 再生可能な建設廃棄物は再生材として再利用 ② 建設廃棄物を再生処理しないで再利用する場合は適正に使用(伐採木の土留め材、コンクリート塊の袋詰め玉石工の使用等)	/	/	/	/	/	/
	(3)分別保管の実施	① 工事現場内で建設混合廃棄物の分別解体、及び、収集による分別保管の実施	/	/	/	/	/	/
	(4)建設発生土の発生抑制と別工事への利用の促進	① 切盛バランスを考慮した残土の発生抑制 ② 残土の他工事への流用 ③ 流用による仮置土からの土砂流出や粉じん発生防止対策の実施	/	/	/	/	/	/
	(5)残土処理地の環境保全対策	① 立木伐採等の2次的な環境破壊が起きない場所の選定 ② 雨水や地下水等による残土の崩壊や流出の防止対策を実施 ③ 埋土部の在来種を主体とした植生による早期復元	/	/	/	/	/	/
	(6)その他の配慮事項:							
温暖化対策	(1)省資源、省エネルギーに配慮した建設資材の使用	① 再生資源の積極的な利用 ② 長寿命資材の使用	/	/	/	/	/	/
	(2)高効率機器の導入	① 省エネ型、高耐久性型機器の導入	/	/	/	/	/	/
	(3)森林資源の保護	① 熱帯産木材の使用削減と間伐材の有効利用の拡大	/	/	/	/	/	/
	(4)その他の配慮事項							

注1) ルーバーとは細長い羽板を隙間を空けて平行に組んだ遮光器具

注2) 正式名称は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」。外来種について、日本及び海外等での生態系への被害状況を踏まえ、日本における侵略性を評価し、リスト化したもの。外来生物法に基づく特定外来生物も含む。それら以外の掲載種については外来生物法の規制はないが、生態系等への被害を及ぼすおそれがあるため、取扱いに注意が必要。

事業別環境配慮検討チェックシート ②道路の建設に関する事項(農道・林道を含む)

事業名・事業概要	
地区名・事業場所	
事業者名・責任者名	
チェック者の氏名	計画段階() 設計段階() 工事段階() 供用段階()

※チェックシートの「①各種事業共通事項」を記入した後、本チェックシートを記入のこと

環境区分要素	環境配慮事項	該当の有無	具体的方策	検討、確認をした項目(○印)				備考 (対応の有無等)
				計画	設計	工事	供用	
景観	(1)周辺景観と調和した道路計画の策定		① 市街地、農村、山地部等のそれぞれの周辺の景観と調和した道路計画の策定					
			② 橋梁等の巨大構造物を設置する場合は周辺景観との調和にも配慮					
動物・植物・生態系	(2)周囲の景観と調和した道路付属施設の選定		① ガードレール等の道路付属施設は周囲の景観に対して調和がとれ、違和感の少ないものを選定					
	(1)環境施設帯注)を設置する場合は連続した植樹帯を設置		① 環境施設帯注)を設置する場合は連続した植樹帯を設置					
動物・植物・生態系	(2)ロードキル(動物が道路上で車に敷かれる現象)の防止		① 動物が道路に侵入しないような路肩形状の工夫、進入防止施設等の設置					
			② 大型動物の場合はドライバーも危険となるため、被害の危険が高い箇所は注意看板を設置					
動物・植物・生態系	(3)河川や水路の付替えの際の自然環境の復元		① 道路工事に伴って付替えられた河川や水路については現況の自然環境を復元					
			② 人工的な河川の付替えが長い区間になる場合は従前以上の自然環境の創出を考慮					
音・大気・振動	(1)周辺住民の住環境に配慮した道路計画		① 住宅密集地を回避するなど周辺の住環境に配慮した計画や構造を検討					
	(2)低騒音舗装の敷設		① 住宅密集地等で騒音被害を減じる必要のある場合には低騒音舗装を敷設					
水質	(1)透水性舗装や透水性側溝、雨水浸透柵の設置		① 地下水のかん養が必要な地域で、なおかつ、雨水の浸透により地盤の強度低下のおそれがない場合には設置					
その他	(1)その他の配慮事項							

注) 環境施設帯とは、道路に付帯して整備される、植樹帯、路肩、歩道、副道等の幹線道路の沿道の生活環境を保全するための道路施設

事業別環境配慮検討チェックシート ③河川の整備、堰の建設に関する事項

事業名・事業概要	
地区名・事業場所	
事業者名・責任者名	
チェック者の氏名	計画段階() 設計段階() 工事段階() 供用段階()

※チェックシートの「①各種事業共通事項」を記入した後、本チェックシートを記入のこと

環境区分要素	環境配慮事項	該当の有無	具体的方策	検討、確認をした項目(○印)				備考 (対応の有無等)
				計画	設計	工事	供用	
上位計画	(1)河川整備基本方針・河川整備計画との整合		① 河川整備基本方針が設定されている水系においては、方針の環境に関する事項を反映した計画					
			② 河川整備計画が設定されている河川区間については、整備計画の環境に関する事項を反映した設計					
景観	(1)現地の景観に調和した工法・材料の使用		① 周辺の自然景観と調和した工法を採用					
			② 護岸に医師を使用する場合は河床を構成している石との調和に配慮					
人と自然	(1)水辺の散策路や親水性護岸の整備		① 日常的に水辺を利用できるように河川管理道を兼ねた水辺の散策路の設置					
			② 緩傾斜で親水性の高い護岸の設置					
動物・植物・生態系	(1)蛇行、瀬、淵、ワンドの保全と創出		① 定型断面での拡幅や直線的な河道設置はできるだけ避け、従前の河川形状を保全					
			② 淵やワンド等の形状が維持されるためのコントロールとなるポイントの保全に留意					
	(2)水辺植生の保全		① 河川断面の設定では現況の水際部は極力残した断面計画とし、陸域部の拡幅で断面確保					
			② 河床掘削の際は水際部の掘削はできるだけ避け、陸域部の掘削にとどめる					
	(3)護岸整備における水際部の多様性の確保		① 多様な生物が生息できるように空石積等の多孔質護岸を採用					
			② のり尻部に寄せ石や木杭の設置して、水辺植生が復元しやすい環境を整備					
	(4)魚類等が生息、移動できる水深の確保		① 水量の少ない時期でも魚類等が生息できるように低水路や淵等により必要な水深を確保					
	(5)出水時において魚類等が避難できる空間の確保		河岸形状や護岸形状の工夫、河床への巨石の配置等によって出水時においても水生生物が下流まで流されないように魚類等の避難空間を確保					
(6)魚類等の移動のために上下流の連続性を確保		① 堰堤や取水堰を改修する場合は魚類が遡上できる構造、もしくは魚道を設置						
		② 落差工を設置する場合は緩傾斜落差工を原則とし、魚類等の遡上が可能となるような形状を工夫						
(7)河道内における工事該当箇所以外の攪乱行為の抑制		① 河道内の仮設道路の設置や建設重機の移動は極力避けた施工						
(8)河床を掘削する場合、大きな石は河床に残す		① 河床掘削では河床の表面にある大きな石は極力持ち出さず、河床掘削後も掘削前と同様の河床構成とする(河床の転石は鮎等の魚類の生息に必要)						
水質	(1)多自然型川づくりによる水質浄化		① 水辺植生や多孔質護岸により水中の有機物の沈殿・吸着・吸収を図る					
			② 早瀬や転石による小落差の保全や創出に努めることで、流水を泡立たせる(曝気による水質浄化の促進)					
(2)ダム・堰等からの取水量の適正化			① ダム・堰等の改築を行う場合、水利権で設定されている流量以上の取水ができない構造とする					
			② 正常流量 ^{注)} が設定されている河川の場合は維持流量分が確実に放流される構造とする					
その他	(1)その他の配慮事項							

注) 正常流量とは、河川環境等に関する「河川維持流量」と河川水の利用に関する「水利流量」とを同時に満たす流量

事業別環境配慮検討チェックシート ④宅地・工業団地・土地区画整理等の造成事業に関する事項

事業名・事業概要	
地区名・事業場所	
事業者名・責任者名	
チェック者の氏名	計画段階() 設計段階() 工事段階() 供用段階()

※チェックシートの「①各種事業共通事項」を記入した後、本チェックシートを記入のこと

環境区分要素	環境配慮事項	該当の有無	具体的方策	検討、確認をした項目(○印)				備考 (対応の有無等)
				計画	設計	工事	供用	
周 影 響 へ の	(1)周辺環境に影響を与えない場所の選定		① 社会基盤(上下水等、道路等)の整備が容易な場所の選定 ② 水道水源周辺や水源地の立地を回避 ③ 工業団地は、住宅密集地を回避					
	(1)良好な街なみ等を創造するために電柱を地中化		① 電柱が良好な町並み景観の阻害となる場合は電柱を地中化	/				
	(1)芝生広場、公園等の整備		③ 住宅団地の整備では、災害時の避難場所等ともなる芝生広場、公園等を整備	/				
動 物 生 態 系 ・ 植 物 ・	(1)生物生息空間の創出		① 周辺地域の自然環境を考慮し、緑地や未利用地等を利用して適切な生物生息空間を創出	/				
	(2)緑地率(緑被率)の確保		① 緑地率(緑被率)については個々の規則や事業における制限値以上を確保 ② 再開発の場合等では現況の値以上を確保	/				
水 質 ・ 土 壌 汚 染	(1)生活污水の適正な処理		① 汚水の処理は共同のし尿処理施設を整備、もしくは公共下水道へ接続 ② ①ができない場合、合併処理浄化槽等を整備	/				
	(2)透水性舗装や透水性側溝、雨水浸透樹の設置		① 地下水のかん養が必要な地域で、なおかつ、雨水の浸透により地盤の強度低下のおそれがない場合では設置	/				
	(3)地下水利用の場合は地盤沈下等に配慮した揚水量の設定		① 地下水利用の場合は地盤沈下に配慮した揚水量を設定	/				
	(4)雨水の貯留利用や中水利用設備の導入		① トイレ洗浄用水、散水用水、雑用水などは雨水を貯留利用もしくは中水を使用	/				
	(5)搬入土砂の土壌環境基準の適合を確認		① 自然由来の土砂以外の搬入土砂は土壌試験を行い、土壌環境基準の適合を確認	/				
物 廃 棄	(1)企業間での共同処理・再利用の体制構築		① 各工場から発生した産業廃棄物等は、企業間において共同処理や再利用に努める体制を構築	/	/	/		
他 そ の	(1)その他の配慮事項							

事業別環境配慮検討チェックシート ⑤建築物の建設に関する事項

事業名・事業概要	
地区名・事業場所	
事業者名・責任者名	
チェック者の氏名	計画段階() 設計段階() 工事段階() 供用段階()

※チェックシートの「①各種事業共通事項」を記入した後、本チェックシートを記入のこと

環境区分要素	環境配慮事項	該当の有無	具体的方策	検討、確認をした項目(○印)				備考 (対応の有無等)
				計画	設計	工事	供用	
景観	(1)歴史的景観の保全	①	風致地区等で歴史的な景観が存在している場合には地元や専門家の意見を聞きながら建築物の外観を形成					
	(2)良好な町並み等を保全し、快適な都市景観の創造	①	町並みの中の一景観要素として該当建築物を考え、周囲の景観との調和した外観を創造					
	(3)建築物は周辺景観との調和に配慮した材料の使用	①	周辺の建物や構造物と類似した地場産素材や天然素材等を使用、植栽は周辺植生と調和した樹種	/				
大気	(1)人の健康に配慮した内装材等の使用	①	人体への影響が懸念される物質を使用している資材等の不使用	/				
風害・騒音等	(1)高層ビル建設に際しては風害防止に配慮	①	風害の発生防止のため、敷地内の建物配置の検討、建物形状の検討、緩衝帯の設置等の検討	/				
	(2)低騒音型室外機等の導入	①	周辺への騒音対策が必要な場合は、低騒音型室外機等を導入	/				
	(3)日照障害の防止に配慮した施設形状や施設配置の検討	①	住宅、学校、病院、福祉施設等の日照確保を必要とする建物の分布状況を把握し、日照障害の起きない施設形状や施設配置を検討	/				
	(4)電波障害の防止	①	事前に建築物による電波障害の影響範囲想定と、範囲内の状況調査により、電波障害が懸念される場合は防止対策を実施	/				
水質	(1)節水機器の導入	①	節水機器の積極的な導入	/				
	(2)雨水の貯留利用や中水利用設備の導入	①	トイレ洗浄用水、散水用水、雑用水などは雨水を貯留利用もしくは中水利用の検討	/				
温暖化対策	(1)省エネルギー型機器の導入	①	省エネルギー型機器の積極的な導入	/				
	(2)敷地、壁面、屋上の施設緑化	①	敷地(駐車場や歩道等)、壁面、屋上を芝やツタ等で植生	/				
	(3)断熱材や断熱製品の使用	①	二重サッシ、複層ガラス、断熱ドアの採用や熱線吸収ガラス、熱線反射ガラス等の使用	/				
その他	(1)その他の配慮事項							

事業別環境配慮検討チェックシート ⑥農業・農村整備(ほ場、用排水路、ため池等)に関する事項

事業名・事業概要	
地区名・事業場所	
事業者名・責任者名	
チェック者の氏名	計画段階()設計段階()工事段階()供用段階()

※チェックシートの「①各種事業共通事項」を記入した後、本チェックシートを記入のこと

農道については「②道路の建設に関する事項」をチェックのこと

環境区分要素	環境配慮事項	該当の有無	具体的方策	検討、確認をした項目(○印)				備考 (対応の有無等)
				計画	設計	工事	供用	
計位	(1)田園環境整備マスタープランの反映		① 農業農村整備事業は田園環境整備マスタープランを反映					
景観	(1)里山や小川等のある農山村の景観を保全した整備		① 田園環境整備マスタープランに基づき農山村景観を保全					
自人と	(1)人が触れ合える水辺環境の創造		① 水辺環境整備においては、人びとが自然と触れ合える親水性が高い環境を創造					
動物・植物・生態系	(1)生物生息空間の保全と創出		① 里山などの山林や未利用地等と連携した生物生息空間の保全と創出					
	(2)河川及び水路の連続性の確保		① 堰等の取水施設を設置または改良する場合は、魚類が遡上できる構造に改変もしくは魚道を設置					
	(3)多様な生物が生息できる水路整備		① 用排水路の整備では、魚類の生息のための水たまり部の確保、水際部の緑化等を整備					
	(4)工事中に改変した水路や河川等の復元		① 一時的に改変された水路や河川は、形状、水深、底質、水際線の材質などを元の状態に復元					
水質	(1)ダム・堰等からの取水量の適正化		① ダム・堰等の改築を行う場合、水利権で設定されている流量以上の取水ができない構造とする					
			② 正常流量 ^{注)} が設定されている河川の場合は維持流量分が確実に放流される構造とする					
その他	(1)その他の配慮事項							

注) 正常流量とは、河川環境等に関する「河川維持流量」と河川水の利用に関する「水利流量」とを同時に満たす流量

事業別環境配慮検討チェックシート ⑦港湾・漁港・海岸整備(埋立)事業に関する事項

事業名・事業概要	
地区名・事業場所	
事業者名・責任者名	
チェック者の氏名	計画段階() 設計段階() 工事段階() 供用段階()

※チェックシートの「①各種事業共通事項」を記入した後、本チェックシートを記入のこと

環境区分要素	環境配慮事項	該当の有無	具体的方策	検討、確認をした項目(○印)				備考 (対応の有無等)
				計画	設計	工事	供用	
生態観系・	(1)自然海岸や海面の保全		① 自然海岸の景観と水産資源を育てる機能の保全と、海岸域の埋立てを抑制					
	(2)藻場、干潟の保全		① 藻場、干潟の保全と埋立てを抑制					
自人と	(1)人と自然が触れ合える親水空間の創造		① 親水空間の整備が必要な場合は、人びとが自然と触れ合えるよう親水性が高い海浜環境の創出や親水性護岸を整備	/				
水質	(1)汚水・濁水の発生・拡散を抑えた工法の実施		① 海上からの資材投入を避け、海中からの投入 ② 汚濁防止シート等の設置により濁水の拡散を防止	/				
	(2)海水浴時期における工事の中止・抑制		① 周辺に海水浴場等がある場合、海水浴時期における工事の中止・抑制	/	/		/	
その他	(1)その他の配慮事項							

事業別環境配慮検討チェックシート ⑧公園・レジャー施設等の整備事業に関する事項

事業名・事業概要	
地区名・事業場所	
事業者名・責任者名	
チェック者の氏名	計画段階() 設計段階() 工事段階() 供用段階()

※チェックシートの「①各種事業共通事項」を記入した後、本チェックシートを記入のこと

環境区分要素	環境配慮事項	該当の有無	具体的方策	検討、確認をした項目(○印)				備考 (対応の有無等)
				計画	設計	工事	供用	
環境周辺	(1)公共交通機関の利用が可能な場所の選定		① 公共交通機関の利用が可能な場所を選定することで利便性の向上と、車による環境影響を低減					
景観・騒音	(1)緩衝緑地帯の設置		① 施設内と施設外を完全に遮断したい場合や施設内で発生する騒音を緩和したい場合などでは、緩衝緑地帯を設置					
生態系	(1)まとまった区間の植樹による生物の生息環境の創出		① まとまった区間の植樹による樹林の創出 ② 様々な樹種の植樹により多くの鳥が飛来してくる空間を創造					
自然と	(1)自然と触れ合えるような施設整備		① 親水性の高い水辺の整備、森林浴のできるような散策道の整備等で自然と触れ合える空間を整備					
水質	(1)雨水の貯留利用や中水利用設備の導入		① トイレ洗浄用水、散水用水、雑用水などは雨水を貯留利用もしくは中水を使用					
	(2)搬入土砂の土壌環境基準の適合を確認		① 自然由来の土砂以外の搬入土砂は土壌試験を行い、土壌環境基準の適合を確認					
温暖化対策	(1)敷地、壁面、屋上の施設緑化		① 敷地(駐車場や歩道等)、壁面、屋上を芝やツタ等での積極的な植生					
	(2)駐車場の適正配置、迅速誘導の案内板の設置		① 駐車場の配置や案内板の設置により、進入路や敷地内での運転時間を短縮					
その他	(1)その他の配慮事項							

事業別環境配慮検討チェックシート ⑨治山事業および砂防事業に関する事項

事業名・事業概要	
地区名・事業場所	
事業者名・責任者名	
チェック者の氏名	計画段階() 設計段階() 工事段階() 供用段階()

※チェックシートの「①各種事業共通事項」を記入した後、本チェックシートを記入のこと

林道については「②道路の建設に関する事項」をチェックのこと

環境 区分 要素	環境配慮事項	該 当 の 有 無	具体的方策	検討、確認を した項目(○ 印)				備考 (対応の有 無等)
				計 画	設 計	工 事	供 用	
景 観	(1)森林景観を保全する整備	①	人里から山林を見たときに違和感を感じない整備	/				
		②	山腹が荒廃している場合は山腹工の設置などで森林景観を復元	/				
景 観	(2)森林景観と調和した構造物の設置	①	整備等により発生する切土のり面は極力緑化を主体としたのり面保護工を実施	/				
		②	コンクリート構造物は、植林の実施や設置位置の工夫等により人里からの景観に配慮	/				
動 物 ・ 植 物	(1)土砂流出防止施設による小動物の移動障害の軽減	①	小動物の移動障害の発生が懸念される場合は、施設の設置場所の検討、施設の形状の工夫等を実施	/				
	(2)施設周辺の植林による森林の復元	①	施設整備による立木伐採の際には施設整備後の植林の実施により森林を早期に復元	/				
	(3)荒廃山腹対策における森林復元の対応	①	荒廃山腹対策では森林復元を優先させ、ダムによる流下防止施設の検討だけでなく、山腹工の設置も考慮	/				
		②	山腹工の植生においては在来種を主体とするなど周辺植生との調和に配慮	/				
そ の 他	(1)その他の配慮事項							

事業別環境配慮検討チェックシート ⑩太陽光発電所の設置に関する事項

事業名・事業概要	
地区名・事業場所	
事業者名・責任者名	
チェック者の氏名	計画段階() 設計段階() 工事段階() 供用段階()

※チェックシートの「①各種事業共通事項」を記入した後、本チェックシートを記入のこと

環境区分要素	環境配慮事項	該当の有無	具体的方策	検討、確認をした項目(○印)				備考 (対応の有無等)
				計画	設計	工事	供用	
土地水質安定性	(1)土地の安定化への配慮		① 地域の気象、地形、地質等を考慮して太陽光パネル(太陽電池モジュール)や付帯設備の配置を検討					
	(2)土砂流出・濁水の発生に対する防止策		② 切土又は盛土を行う場合は、法面の安定性の検討を十分に行った上で、安定化が図れる勾配や工法を決定する。 ③ 洗掘や雨裂による土砂流出・濁水の発生を防止するため、法面保護工を行う					
景観	(1)周辺景観への調和		① 太陽光パネルや付帯設備等の色彩は、周辺環境との調和に配慮					
			② アレイは周辺環境との調和に配慮した高さ、配置					
			③ 敷地境界から距離(バッファゾーン)をとりアレイを配置					
			④ 敷地境界周辺に植栽を施す、又は周辺部の森林を残す					
			⑤ 既存施設と同系色の新設設備を採用					
騒音	(1)パワーコンディショナ等の騒音源対策		① パワーコンディショナ等を住居等から離れた場所に設置					
			② パワーコンディショナ等に囲いを設ける、住居等との境界部に壁を設置する等の防音対策					
反射光	(1)太陽光パネルの反射光対策		① 住居等が近くにある場合は、反射光が当たらないようにアレイの向きや配置を検討					
			② 太陽光の反射を抑えた防眩仕様パネルを採用					
			③ 住居等との境界部にフェンス等を設置又は植栽施工					
自人と	(1)隣接する人と自然との触れ合い活動の場への配慮		① 造成工事による土ぼこり、建設機械や工事用車両による騒音・振動の影響が及ばないように配慮					
廃棄物	(1)事業終了後における適切な撤去・処分の検討		① 事業終了後における太陽光パネル等の適切な撤去・処分について計画を検討					
その他	(1)定期的な状況確認と維持管理		① 周辺の環境に影響を及ぼす状況が発生したときに、適切な対策を直ちに講ずることができるよう、外部から見やすい場所に連絡先を明示					
	(2)その他の配慮事項							